

クリエイティング・フォー・アース: エコロジー問題に取り組むクリエイティブ・キャンペーンを探る

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2026年3月1日 ～2026年3月8日	インドネシア	ウィディアマンダラカトリック大学スラバヤ 国立台湾科技大学 大阪工業大学	物質化学課程、応用化学科、情報工学科 *学部1年生、学部2年生、学部3年生、学部4年生	(芝浦工業大学) 学生18名、教員1名 (ウィディアマンダラカトリック大学スラバヤ) 学生24名 教職員8名 (大阪工業大学) 学生8名 (国立台湾科技大学) 学生6名 教員1名	吉見 晴男(工学部)



図1 集合写真

今回のテーマは「共同教育を通じた気候変動と環境の持続可能性に関するデジタルキャンペーン(Digital Campaign on Climate Change and Environmental Sustainability through Collaborative Education)」であった。Widya Mandala Surabaya Catholic University(UKWMS)、国立台湾科技大学(NTUST)、大阪工業大学(OIT)、芝浦工業大学(SIT)の学生たちがチームを組み、「気候変動対策と環境保護のためのデジタルキャンペーン」*1について議論し、最終日にはその成果を発表した。ひとつのチームの構成人数はおよそ8名から10名程度であり、計6グループに分かれて活動を行った。参加学生はインドネシア、日本、台湾の異なる背景を持つメンバーと協力し、現地の生態学的課題や各国のベストプラクティスについて意見を交わした。成果発表は「ミニ・エキスポ(Mini Expo)」の形式で行われた。各グループは数日間かけて制作したデジタルキャンペーンの内容やアウトプットについて、小規模なプレゼンテーションを行い、招待された審査員に対して自分たちのプロジェクトの意義を説明した。今年度のプログラムでは、教室での学習だけでなく「ハンズオン体験(実体験)」が重視された。3月3日の「世界野生生物の日」を記念したマングロープの植林活動や、伝統工芸であるパティック(ろうけつ染め)制作などの体験学習が行われた。また、最終日にはスラバヤ動物園の見学または歴史地区のヘリテージ・ツアーを共に楽しむ自由選択のアクティビティが設けられ、国際的な親睦と友情を深める機会となった。



図2. マングロープの植林に向かうボート



図3. 動物園